

青葉区では、7月8日（月）に町内会役員を対象とした「町内会役員担い手講座」を開催しました。講座には48名の方にご参加いただき、町内会活性化のヒントについて講義を聞いたのち、グループに分かれて意見交換をしました。

「開催概要」

日 時：令和元年7月8日（月）

13:30～16:30

場 所：青葉区役所 4階会議室

参加者：48名 ※ワークショップは45名

内 容：講義

チェックシートを用いた自己診断

ワークショップ

発表・まとめ

■ 講義

株式会社KITABA常務取締役 内匠庸介氏から、地域コミュニティを支える町内会の必要性や、町内会が抱える課題、課題解決のための考え方やヒントなどの話題提供が行われました。

■ チェックシートを用いた自己診断

講義の後は、「町内会タイプ分類&自己診断シート」を使って、それぞれ参加者のみなさんに、世帯構成と居住形態から見た『町内会のタイプ』を診断してもらいました。



■ ワークショップの全体結果

ワークショップでは、町内会のタイプごとに8つのグループに分かれ、「町内会の課題」と「課題に対する解決のアイデア」を出し合いました。グループの発表では、町内会の担い手づくりなどに関してさまざまなアイデアが出され全体で共有しました。

※グループごとの意見やアイデアは裏面をご覧ください。

ワークショップ全体のまとめ

● 参加・参画しやすい町内会の仕組み・体制

- ・ 担い手になってもらうため、ハードルを下げて参加してもらう。
- ・ 協力員制度などでまずは参加してもらうようにする。

● 担い手になってもらうためのきっかけづくり

- ・ イベントで参加者に声かけするなど、顔の見える関係づくりを行う。
- ・ 気軽な交流の機会をつくる。
- ・ 次の担い手候補に目星をつけておき、積極的にコミュニケーションをとっていく。

● 若い世代に対する参加のきっかけづくり

- ・ 子ども会への声かけなどからつながりづくりを行う。
- ・ 子ども会やPTAから町内会に参加してもらうように架け橋をつくる。

● 役員の負担軽減

- ・ 町内会の業務について、まずは最低限のことから町内会のやることを考える。
- ・ 役員がいろいろな役職の兼任をしないようにする。

● 役員の選出方法の見える化

- ・ 役員を選出するルールを明確にする。
- ・ 任期は長すぎず、短すぎないように、3年にする。
- ・ 年間の行事やイベントのカレンダーをつくり、役員の作業を見える化する。

グループごとの意見・アイデア

1 グループ

【課題】

- ・マンション・アパートでの住民の交流が少ないため、積極的な参加が少ない
- ・特定の人々の役員の兼任が多い

【アイデア】

- 運動会や飲み会、祭りなどの集まりやすい行事の開催により関心を高める。
- 長い期間特定の人々が役員をやらず、役員が固定化しないように配慮することが必要。
- 町内会として互助の気持ちが大切！

2 グループ

【課題】 役員の固定化
役割がわからない

【アイデア】

- 役員の選出方法の明示
- 輪番制
- 年間スケジュールの明確化

3 グループ

【課題】 業務の縮小化

【アイデア】

- 環境衛生と防災、交通安全の取組を最低限のものにして、後は余力があればやるようにする。

4 グループ

【課題】

- ・若い世代がいない
- ・ゴミ集積所の外国人のマナー管理
- ・若い世代の町内活動への取り込みが難しい
- ・会長職をやりたい人がいない

【アイデア】

- 役員の仕事をもっと町内の人にも知ってもらおう。

5 グループ

【課題】 担い手確保

【アイデア】

- 役員任期は短すぎてもダメ。仕事を覚えてもらう、役員として顔を覚えてもらうためにも3年やってもらう。
- 会長をやってもらう前に、別の役職を経験してもらう。
- まずは、顔見知りになる。
- 行事に参加する人に少しずつ声をかけておく。

6 グループ

【課題】 若い人を取り込むには

【アイデア】

- 子ども会役員へ声をかけ、少しずつお手伝いしてもらう（買い出しなど）
- 町内会と子ども会の架け橋になってもらい、無理のない範囲で役員になってもらうようにする。

7 グループ

【課題】 会長・役員任期

【アイデア】

- 役員任期のスライド方式で、継続的に入れ替えるようにして活性化させる。

8 グループ

【課題】 担い手不足

【アイデア】

- 協力員を募集する。実際に声かけをしてみる。

【課題】 集合住宅が多く、共通意識が持てない

【アイデア】

- 参加のハードルを低くして、ボランティアで若い人に参加してもらう。